

令和7年度宇都宮大学農学部外部評価結果報告書（教育・研究）要旨

農学部；学部長 山根 健治，点検・評価委員長 前田 勇

第4期法人評価の中間評価を受審するに当たり『自己点検・評価書』を作成し，外部評価委員による訪問調査（ヒアリング）を実施した。自己点検・評価書の作成においては法人評価の書式に則って教育活動と研究活動にそれぞれ関する優れた成果を出した取組や先進的な取組，戦略性が高い目標・計画に係る取組を収集・整理し記載した。これらと共に農学部と附属施設を代表する優れた研究業績として選定した14件を『研究業績説明書』に取りまとめた。また，大学で定める『アクションプラン2022-2027』に対する部局ミッションの取組状況についても記載した。外部評価委員は自己点検・評価書とヒアリングの内容を基に評価を行った。

1. 外部評価実施手順

令和7年7月	評価委員に自己点検・評価書送付，書面審査実施
令和7年8月	評価委員によるヒアリングの実施
令和7年9月	評価委員から評価書を受理
令和7年11月～令和8年3月	第4期法人評価の『現況調査表』に評価書の内容を反映
令和8年3月	『外部評価結果報告書』を作成・評価結果を全学で共有

2. 外部評価委員

小林幹央	レオン自動機株式会社 代表取締役社長
長崎裕司	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構・農業機械研究部門 所長
立川雅司	名古屋大学大学院環境学研究科 教授
中村健太郎	住友林業株式会社 森林・緑化研究センター長

3. 評価結果

教育活動では注目される点として、「高校生や企業を対象にしたアンケート調査を通じて，社会のニーズを教育プログラムに反映させようとしている点」，「高大接続入試の推進については，グローバルサイエンスキャンパス事業での iP-U 等に参加した高校生に働きかける取組」，「フィールド実習を・・・峰キャンパスでもできる形を検討するとの話を伺い，実践的な教育をより身近な環境で行う工夫に努めている」，「文理複眼，持続可能な社会実現への意識づけ，反転授業，PBL 活動など，幅広く多角的な人材育成を進めるプログラム」，「農場実習，海外フィールド調査，公務員セミナー，アクションリサーチ，食育出前授業，他大学との合同ゼミ，農業インターン，農村実習など，学生の実体験に根差した深い学習機会を提供されている努力」，「農林業は実業でもあるため，実習を手厚くし，理論と実践を両立できる学生を育成することは大変良い」，等が挙げられた。一方，改善を要する点として，「今後の農業・食品分野で必須となる AI や IoT，データサイエンスを扱う教育をさらに充実させることを希望」，「農場実習の充実に関して，附属農場の共同利用拠点にともなう環境整備にとどまっている懸念があったが，中身についても生産のポイントを学べるプログラムなども工夫

しているようなので、その拡充を求めたい」、「データサイエンスの授業と、PBLでの活動が並行して進められているが、これらを結びつけるような経験ができると良いのではないか。具体的には社会調査実習的な要素をPBLのなかに含め、そこで得られたデータを解析するような形」、「今や英会話は出来て当たり前の時代となっていることから、単なる国際交流事業に留まらず、学内での共通語を英語にする曜日を設定するなど更に踏み込んだ施策を検討願いたい」、等が挙げられた。

研究活動では注目される点として、「イチゴプロジェクトは、地域産業の活性化に貢献し、産学連携の成功例」、「イチゴプロジェクト」については、地域連携研究としても重要度が高い一方で、世界的にも良食味とされる日本のイチゴを栽培面でもより高度化していく上で期待される。特に、日本産で供給が不足している夏イチゴで高品質果実が得られる品種の開発などへの展開も期待したいところ」、「コマ品種「ゆうだい 21」の取組については、NHKの全国放送などでも取り上げられるなど、高品質で注目されているところだが、地道な栽培研究と併せて普及拡大が進んでいくことを期待」、「農業機械技術クラスター事業において、農作業安全に係る取組は重要であり、スマート農機の普及に併せて農地基盤整備との関係は農政の目指す構造改革にも直結することから、更なる展開を期待」、「地域の重要な産業であるイチゴに関する様々な研究を進め、地域貢献している点」、「NEDOとの協調により林業・林産業の両面において木質バイオマスの利用促進に供する成果を得ている」、等が挙げられた。一方、改善を要する点として、「既に農林水産省政策研究所との共同研究で取組中だが、農山漁村の創造関係については、宇都宮大学の強みを活かした農業と林業の相互関係を明らかにしつつ、上記のNEDO事業の知見なども活かしながらの展開が考えられる」、「「研究の水準」という場合、教員のなかで、競争的研究と地域対応的研究の割り振りなどがどのように考えられているのか、補足説明があると良かった。教員間の役割分担や、業績評価との関連に関わる論点であり、どの大学でも課題を抱えている」、「ネイチャーポジティブや地球温暖化へのアプローチが乏しい。鬼怒川と大谷川という水系を有し、多様性に富んだ日光という特別な場所に演習林を所有されていることから、ネイチャーポジティブに関する研究をより一層進めて頂きたい。ネイチャーポジティブは、国際社会から地域へ、また地域社会から国際社会への交互発信することにより理解と対策が進むことから、貴大学の役割に大きな期待が集まる」、等が挙げられた。

4. 本学部における対応

点検・評価委員会を中心に評価書の内容を精査し反映させる形で第4期法人評価の現況調査表を作成した。研究業績説明書に記載された研究業績に対して、区分SS（判断基準：当該分野において、卓越した水準にある）を付与する際に評価委員の意見を参考にした。今後、附属農場、附属演習林および雑草管理研究教育センターを全学の「未来農学共創センター」として統合し、社会共創について外部評価委員から期待されていた「ゆうだい 21 普及」、「スマート農業」、「農山漁村の創造」等の地域対応的課題に全学的に取り組む。特に、外部評価委員から評価の高かった「イチゴプロジェクト」をはじめ、課題として指摘された「ネイチャーポジティブ」に繋がる研究に学内外機関と連携して取り組み、社会貢献を目指す。